

冬休み前の全校集会あいさつ

「おはようございます」

明日から冬休みということで今年も、あと少しになりました。

今年は言うまでもなく「新型コロナウイルス」に向き合ってきた1年でした。教育活動が思うように実施できず、君たちには不安な思いや不満な思いをさせたと思います。でも君たちは、この事態に本当に良く「協力」してくれました。まずはこの君たちの「協力」に感謝したいと思います。

さて話は変わりますが、この時期になりますと、「喪中につき新年の挨拶を失礼させていただきます。」というハガキが家に来ます。その中に以前勤務していた高校で私が担任をしていた元生徒の母親からのものがありません。病気に伴った喪中のハガキです。享年42歳でした。

彼の病名は「筋ジストロフィー」です。簡単に言うと、筋肉が徐々に衰えていく病気です。この病気は以前できていたことが、徐々にできなくなります。高校に入学時は、すでに車いすでの登校でした。そのため、学校として対策委員会を立ち上げ、保護者、中学校、教育委員会、そして「筋ジストロフィー」に関する最新の研究を有する刀根山病院等と連携をし、彼のために何ができるのかを考えました。

彼は普段電動車いすを活用していましたが、当時その学校にはエレベーターがなかったため、電動ではない車いすを活用せざるを得ず、人海戦術で移動補助をしました。移動補助はクラスの友人及びその状況を見た人など。階の移動は、4人で車いすの前後左右を持ち、彼の不安を避けるために、後ろ向きで上り下りです。

トイレ介助は全教職員の当番表を作成し交替で行いました。このトイレ介助が中々難しいんですよ。ズボンの上げ下げを他人がするわけですから。上のシャツを元通りに彼が不快にならないように収めるのを大変苦労したことを覚えています。トイレ介助の基本時間は2.3限の間、昼休み、放課後でしたが、2.3限の休み時間は5分延長し15分にしました。

あとは彼専用の机の手配や定期考査時間の延長、解答用紙の拡大、外部人材の確保、機能訓練の体制づくりなどです。他にも多々あったと思いますが、ありすぎて思い出せません。

あと良かったのは彼が北海道の修学旅行に参加できたことです。お母さんが同行され、寝るときはみんなと別室になりましたが、それ以外は全く同じ行動です。よくある光景ですが、夕食時の諸注意の場面で、お母さんの前で生徒指導担当だった私が学年全体に厳しく指導しなければならないことがあり、恥ずかしい思いをしたことも記憶に残っています。

このお母さんに私はとても助けられました。当時、まだまだ教師として未熟だった担任の私に、寒に温かく接していただきました。そして当時の勤務校は全日制普通科の高校でしたが、彼が入学してきてくれたことで、教師も生徒も色々な場面で「協力」し、色々なことを学ぶことができました。

彼はその後大学に進学します。手作りの年賀状もずっと届いていましたが2年ほど前に、「今回が最後になる」とあったので、いよいよかと思いました。

今回、喪中のハガキが届いたことで、当時の彼のことを振り返りました。そして当時、学校内外のみんな、各自ができることを「協力」していたことを思い出しました。

冒頭 このコロナ禍の1年、君たちの「協力」に感謝をしました。この大変なコロナ禍の中、1枚の喪中のハガキが、改めて「協力」の大切さを教えてくれたような気がします。

短い冬休みの間、今年は旅行等、色々な場所に出かけることも難しいと思います。家族や友人、その他のみんなと「協力」して、安全には十分注意をし、危機管理に努めてください。それでは、1月5日に、また元気な顔が見られることを楽しみにしています。